

★ 新型コロナウイルス感染症予防接種 ★

～新型コロナウイルス感染症予防接種を希望される方は、**接種を受ける前に必ずお読みください**～

※新型コロナウイルス感染症予防接種を定期接種として受けることができるのは毎年度1回のみです。2回目以降の接種は定期接種の対象外となり、全額自己負担となります。

1. 新型コロナウイルス感染症とは

新型コロナウイルス感染症は、コロナウイルスの一種である新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）に感染することによって起こります。

感染経路は、感染者の口や鼻から、咳、くしゃみ、会話等のときに排出されるウイルスを含む飛沫又は、エアロゾルと呼ばれる更に小さな水分を含んだ状態の粒子を吸入するか、感染者の目や鼻、口に直接的に接触することにより感染します。また、ウイルスが付いたものに触った後、手を洗わずに目や鼻、口を触ることにより感染することもあります。

主な症状は、発熱、呼吸器症状（咳、咽頭痛）、頭痛、倦怠感（だるさ）などです。下痢や嘔吐、嗅覚・味覚障害が起こることもあります。

2. 新型コロナウイルス感染症の予防

予防の基本は、ウイルスの体内への侵入を防ぐことと流行前の予防接種です。流行期には人混みを避け、外出時のマスク、こまめな手洗い、うがいなどを励行しましょう。また、常日ごろから十分な栄養と休息をとり、湿度 40%～70%を目安として室内の加湿に心がけましょう（空気が乾燥した部屋などではウイルスが広がりやすいためです）。

3. 予防接種の有効性

新型コロナウイルス感染症のワクチン接種には、発症予防や重症化（入院）予防の効果があることが確認されています。

4. 予防接種を受ける前に

予防接種は体調のよい時に受けるのが原則です。新型コロナウイルス感染症予防接種について、必要性や副反応についてよく理解しましょう。気にかかることや分からないことがあれば、予防接種を受ける前に担当の医師や看護師に相談しましょう。

新型コロナウイルス感染症予防接種は、予防接種法におけるB類疾病の予防接種となります。そのため、接種義務及び接種努力義務はありません。接種を受けるかどうかは対象者の任意となりますので、医師等とよく相談し、接種の効果や副反応などを十分に理解した上で接種をご検討ください。

なお、予診票は医師にとって、予防接種の可否を判断する大切な情報です。接種を受けるご本人またはご家族が責任をもって記入し、正しい情報を接種医に伝えてください。

5. 新型コロナウイルスワクチンとその他のワクチンとの同時接種・接種間隔について

新型コロナウイルスワクチンとその他のワクチンとの同時接種については、医師が特に必要と認めた場合に可能です。また、その他のワクチンとの接種間隔は、何日あけなければならないという規定はありません。

（裏面に続きます）

6. 予防接種を受けることができない人

①明らかに発熱のある人。

一般的に、体温が37.5℃を超える場合を指します。

②重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人。

急性の病気で治療中などの人は、その後の病気の変化がわからなくなる可能性がありますので、その日は見合わせるのが原則です。

③新型コロナウイルスワクチンに含まれる成分によって、アナフィラキシーや重度の過敏症を呈したことが明らかな人。

「アナフィラキシー」とは、通常接種後、約30分以内に起こる強いアレルギー反応のことです。発疹、じんましん、皮膚や鼻のどのかゆみ、顔や唇がはれる、声が出にくい、咳、息が苦しい、腹痛、嘔吐などの症状に続き、血圧が下がっていく重篤な全身反応です。

④その他、医師が不適当な状態と判断したときは接種できません。

7. 予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなくてはならない人

①心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患等の基礎疾患を有する人。

②過去に受けた予防接種で、接種後2日以内に発熱のみられた人、及び全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を呈したことがある人。

③過去にけいれんの既往のある人。

④過去に免疫不全の診断がされている人及び近親者に先天性免疫不全症の人がいる人。

⑤接種しようとする接種液の成分に対してアレルギーを呈するおそれのある人。

⑥抗凝固療法を受けている人、血小板減少症または凝固障害のある人。

⑦過去の新型コロナウイルス感染症予防接種で具合が悪くなったことがある人。

8. 予防接種を受けた後の一般的注意事項

①予防接種を受けた後30分間は、急な副反応が起こることがあります。

医療機関とすぐに連絡を取れるようにしておきましょう。

②入浴は差し支えありませんが、注射した部位を強くこすることはやめましょう。

③接種当日はいつも通りの生活をしてかまいませんが、運動や飲酒は避けましょう。

9. 新型コロナウイルス感染症予防接種の副反応

接種後に接種部位の痛みや倦怠感、頭痛、発熱等、様々な症状が確認されていますが、ほとんどが軽度又は中程度であり、こうした症状の大部分は、接種後数日以内に回復しています。

まれに、重い副反応として、アナフィラキシー症状（全身性発疹・じんましん、呼吸困難、口唇・のどの腫れ等）があらわれることがあります。また、ごくまれではあるものの、心筋炎や心膜炎などの重篤な副反応を疑う事例が報告されています。

もし、接種後体調が悪くなった時は、医師の診察を受けてください。

10. 定期予防接種による健康被害救済制度について

定期予防接種により重篤な副反応が生じた場合に、国が予防接種法に基づき認定したときは、公費での救済制度があります。

◆その他不明な点がありましたら下記までお問い合わせください。

東久留米市福祉保健部健康課予防係

電話：042-477-0030